

生活状況に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)

実施結果の概要

※ 詳細は「生活状況に関する調査報告書」を参照

健康局健康推進部こころの健康センター

1 調査目的及び方法

本市のひきこもり状態にある方の割合やひきこもりに至るきっかけ、関連する要因等を把握し、ひきこもり支援施策を検討するための基礎データを得ることを目的とする。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による外出自粛要請の影響を避けるため、調査対象期間を平成31年（令和元年）1月1日から同年12月31日までとした。

郵送により配布・回収をおこなった。

2 調査実施期間

令和2年12月24日～令和3年1月18日

3 調査対象

本市に居住する満15歳～満39歳及び満40歳～満64歳の者（令和元年12月31日時点）から、それぞれ等間隔法により無作為に抽出した10,000人の標本を調査対象者とした。

4 有効回答数・回収率

① 子ども・若者群（満15歳～満39歳、年齢は令和元年12月31日時点）

② 成人群（満40歳～満64歳、年齢は令和元年12月31日時点）

	母集団	標本数	有効回答数	回収率 (%)
① 群	825,411	5,000	1,447	28.9
② 群	915,883	5,000	2,086	41.7

※母集団：住民基本台帳人口（令和元年12月末時点）

5 結果(抜粋)

【今回の調査におけるひきこもり群の定義】

本人の妊娠・出産を含む身体疾病等もしくは、介護・看護等を必要とする家族と同居しているなどの理由により、常時自宅にいる必要がある場合を除き、外出頻度が極めて低い状態が6カ月以上持続する。

ただし、「自宅で仕事をしている」、「専業主婦（夫）などで家事・育児のために自宅に居ることが多い」、「自宅で介護・看護が必要」な場合を除く。

新型コロナウイルス感染症による外出制限等のみを「ひきこもりのきっかけ」としているケースは分析対象から除外している。

(1)ひきこもり群の推計

本調査における「ひきこもり群」に該当する方の人数は、子ども・若者（満 15 歳～満 39 歳）で 30 人（2.07%※）、成人（満 40 歳～満 64 歳）で 55 人（2.64%※）であった。上記により、調査時点（令和元年 12 月末）において「ひきこもり群」に該当する方は、以下のとおりと推計された。

①子ども・若者群における「ひきこもり群」の推計：約 1.7 万人

②成人群における「ひきこもり群」の推計：約 2.4 万人

【推計人数の算出方法】

調査時点（令和元年 12 月末）における住民基本台帳人口×有効回答数に占める割合※

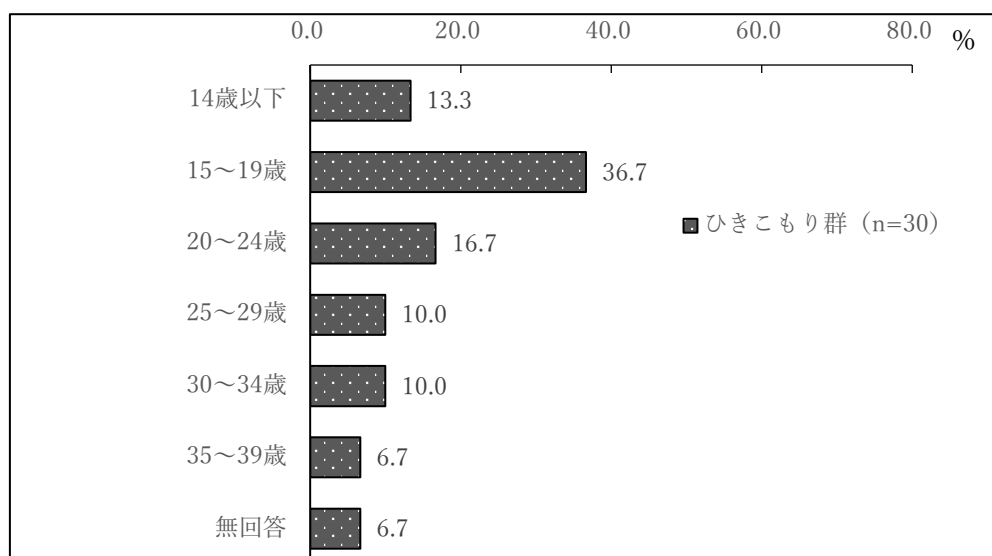
子ども・若者（満 15 歳～満 39 歳）：825,411 人×2.07%＝約 17,086 人

成人（満 40 歳～満 64 歳）：915,883 人×2.64%＝約 24,179 人

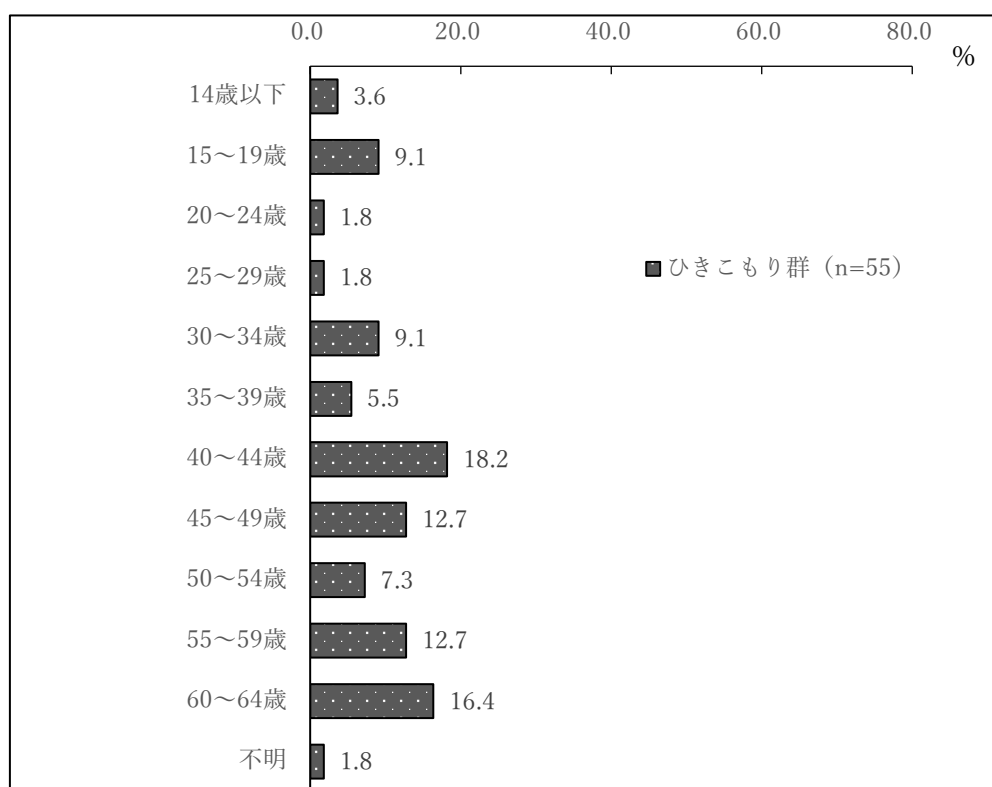
(2) ひきこもりの状態になった年齢

【そのような状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)】

① 子ども・若者群



② 成人群



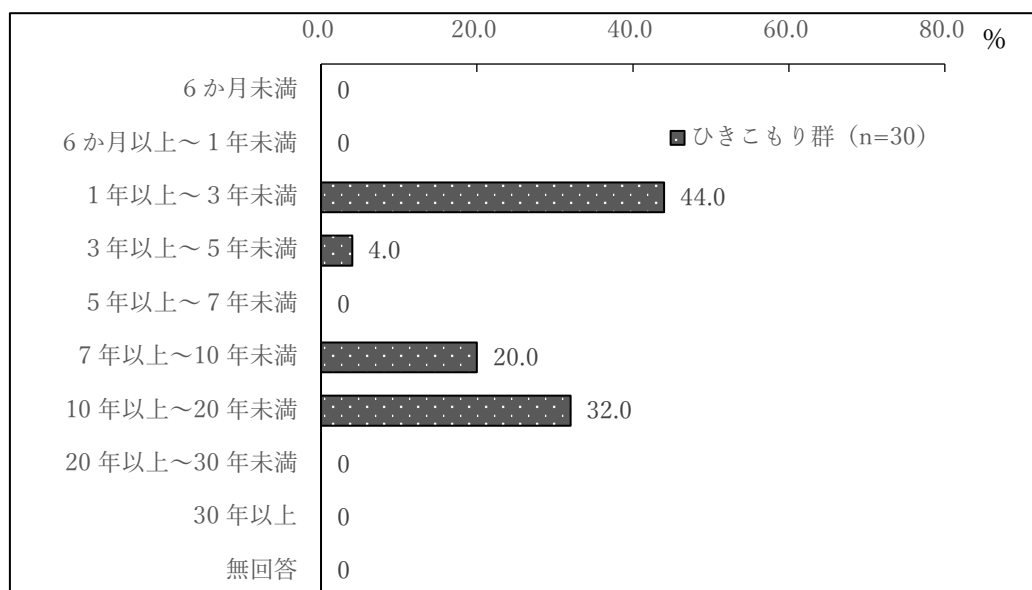
ひきこもりの状態になった年齢については、①群では1位：「15～19歳」(36.7%)、2位：「20～24歳」(16.7%)、②群では1位：「40～44歳」(18.2%)、2位：「60～64歳」(16.4%)であった。

さらに②群では、二峰性の分布を示した。

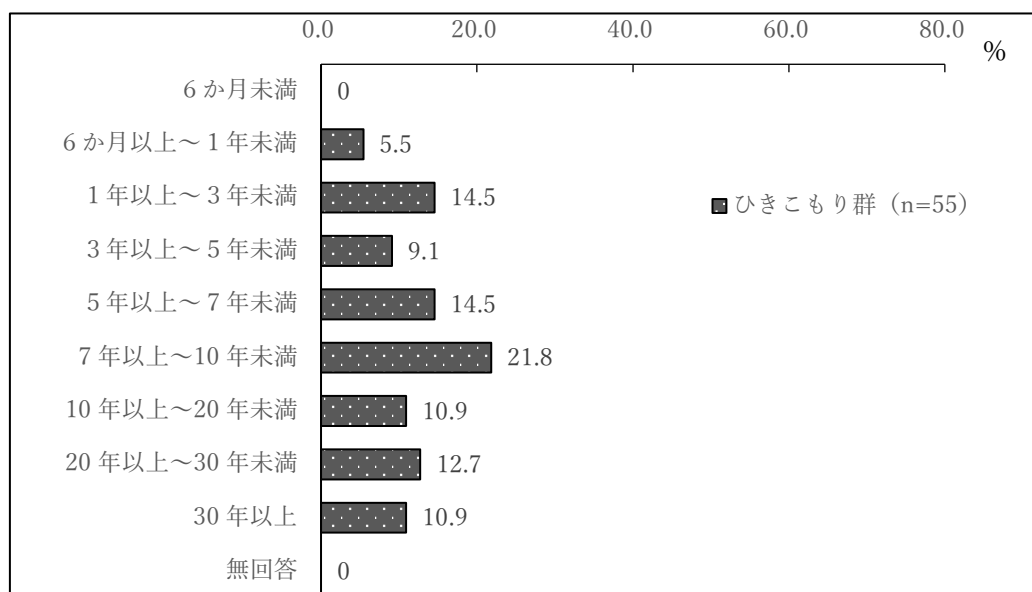
(3) ひきこもりの状態になってからの期間

【あなたがそのような状態になってどのくらい経っていましたか。(〇はひとつだけ)】

① 子ども・若者群



② 成人群



ひきこもりの状態になってからの期間については、①群では1位：「1年以上～3年未満」(44.0%)、2位：「10年以上～20年未満」(32.0%)、②群では1位：「7年以上～10年未満」(21.8%)、2位：「1年以上～3年未満」と「5年以上～7年未満」(14.5%)であった。